

## 数字へのこだわり

豊澤 幸平

フルタイムの仕事から離れ約二年経過したが、それ以降、健康を維持する為に、「一日、一万歩のウォーキング、週一日のゴルフ、週一日の加圧トレーニング」を目標に励んでいる。これを自分で、「一・一・一」と命名しているが、二年間なんとかこの目標を達成している。これらが目的にかなっているか確信はないが、何とか元気に過ごしていることから多少なりとも効果はあるのであろう。これからも実践したい。

ところで、私のこの数字、数字化へのこだわりは、現役時代の五十一年間に身に着き今も引きずっているのかも知れない。商社、製造業に身をおいていたが、駆け出し時代、中間管理職、経営者として、中期経営計画、各年の予算、予算進捗、結果・業績と、年中、数字を追いかけて、追いかけてきた。たかが数字、されど数字である。しかも業績自体は、右肩上がり、成長を継続することが求められていた。数字をベースに、議論をすることを上司から指導され、また指導してきた。

数字、数字化、統計をベースにしたアプローチが、一〇〇%、正しいことかと疑問を持つこともあったが、経済活動においてはやはり正当化される手法である。但し、数字が独り歩きしないよう、無味乾燥にならないよう、数字や統計の背景を読み解き分析する能力、「物語性」が重要であろう。その意味では、数字は正直、しかし数字は絶対ではない、のである。

経済界以外の、医療、司法、福祉、学問、芸術、宗教などの人間の営みは、一見、数字と直接は関係ないように見えるが、ここでも数字は考慮すべき要素であろう。これらを語る際に数字を使うことを嫌悪することもあるが、時として不確実な課題を見通す一つのヒントになるのではなからうか。

さて、私はゴルフのスコアについてもこだわっているが、残念ながら目標スコアには時々しか到達しない。スコアにこだわらず楽しく仲間とプレイをすることにしたいが、未熟な私はなかなかその域には到達しない。

(二〇二四年六月)